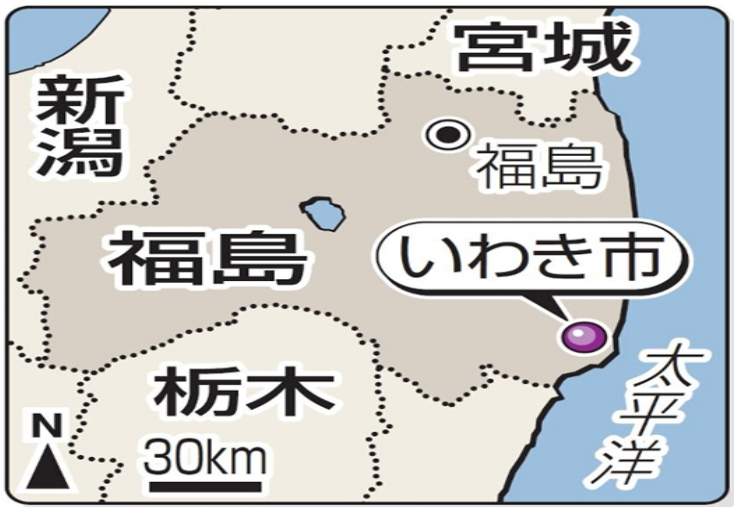
被災産地支援研修会報告書(大田市場水産物部)

平成２５年１１月１３日（水）にいわき市地方卸売市場小名浜魚市場で被災産地支援研修会が開催され、大田市場からは総勢８名が参加し、現地の海産魚介類のモニタリング結果、試験操業の取り組みや風評対策などを見聞し、現地の方々と意見交換を実施しました。

その後、小名浜漁港及び放射性物質の漁協検査室を視察しました。



研修会の概要

１参　加　者　　大田・築地・足立の水産市場関係者および小売業者等

２研修内容　　ア　福島県における海産魚介類モニタリング結果の概要
イ　いわき地区における試験操業の取組について
ウ　いわき市における風評対策について
エ　小名浜漁港区における震災前後の水揚げ状況について
オ　いわき地区における水産物の流通について
カ　意見交換

【　代表者　挨拶　】

＜　東京魚商業協同組合　神田理事長　＞

（震災から）２年８ヶ月経過したが、操業自粛などで大変な思いを続けておられる。いわきでも今般試験操業が開始され、本日その状況を実際見聞きできることは有意義である。もともとこのあたりで獲れる魚は常磐(ｼﾞｮｳﾊﾞﾝ)物といって評価されてきたものであり、今後の取組に大変期待している。

今日のことは商売仲間やお客さんにお伝えし、少しでもこちらのお力になればと考えている。

＜　福島県漁業協同組合連合会及び
小名浜機船底引網漁業協同組合　野崎会長　＞

初めての放射能問題でもあり、消費者・消費地サイドの不安を取り除くことの難しさを感じた。いわきの水産物の流通は慎重に進めていきたい。また、参加された皆さんには、本日見聞したものを活かしていただき、今後ともお付き合い願いたい。

＜　福島県水産事務所　岩上所長　＞

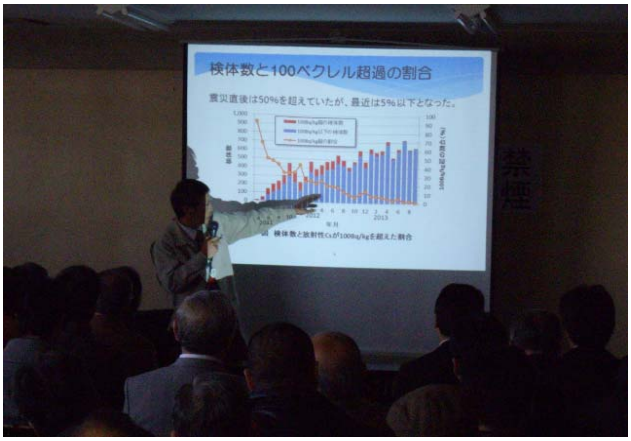
福島県の漁業は大きく２つに分かれ、南部はサンマなどの大型船による漁業、また北部はシラス漁など沿岸漁業が盛んであるが、ここいわきでも沿岸漁業でこの１０月から試験操業を始めた。

福島県の魚は安全であり、安心であるという認識をお持ち帰りいただきたい。

【　研修内容　】

福島県水産試験場の藤田漁業環境部長から「福島県における海産魚介類モニタリング結果の概要」について、説明がありました。

放射性物質の濃度は一様ではなく、海域による傾向、魚種による傾向があることなどから、平成２５年１１月１３日現在、４１種の魚介類が出荷制限等の対象となっていることが示されました。



いわき市漁協協同組合吉田信用担当理事からは「いわき地区における試験操業の取組について」話され、特にいわきで水揚げされる魚への独自の検査体制についての詳細な説明がありました。

いわき市水産振興室の松本主幹からは「いわき市における風評対策について」説明がありました。

水産業が、現在の厳しい状況から一歩踏み出していくために様々な立場の方々で情報を共有し、これからの海と放射能について考える場が必要であるとの考えから【いわきサイエンスカフェ】を月１回開催していることなど様々な取組みが示されました。

小名浜機船底引網漁業協同組合の前田経理部次長からは、「小名浜漁港区における震災前後の水揚げ状況について」説明がされました。カツオの水揚げについて「小名浜から遠く離れた海域で漁獲され、小名浜だけでなく他県にも水揚げされるが、小名浜に水揚げされたカツオは放射能検査を実施し出荷している」ことを PR したという、消費者に安心を与えるための取組が紹介されました。（写真のうちわ）

小名浜水産加工業協同組合の小野組合長からは「いわき地区における水産物の流通について」説明がありました。

自信を持って出せる魚を出しても一般消費者にはなかなか分かってもらえない。そこで組織的な対応が必要であると考え、仲買人の連合会を立ち上げ、県の復興協議会に魚屋として参加している。自信を持って魚を出荷しているので、市場で正当な評価をして欲しいとコメントしていました。

【　意見交換　】

意見交換では、参加者から「これだけの検査体制で行っているとは知らなかった。お客さんに自信を持って売っていくことができる」と実感を述べたあと、「汚染水の流出について、どのように考えているか？」との質問がありました。これに対して野崎会長は、７月の東電発表により９月に開始を予定していた試験操業にも影響が生じたが、放射能検査の結果を考慮しながら試験操業を行っていくという考えのもとで現在取組んでいることが紹介されました。それを受け、参加者からは「いわきの魚を待っています！」と支援の言葉で応じていました。

【参加者アンケート結果】

- 福島県やいわき市漁協で実施している検査体制等や取り組みなど理解できた。今後はいかにして消費者に理解していただくかは、産地のみならず市場流通関係者の役割だと感じた。一日も早く安心安全な福島産の水産物を流通させ復興につながるよう努力・協力したい。
- 東京の市場で（市場祭などでの）ＰＲや販売が必要かと思う。
- 今回参加して放射性物質に対して理解し、生産地での取組みを見て私達がどのように販売していかなければならないかが分かった。
- 良い商品を提供し続ける努力が必要である。
- お客様に説明して販売していきたい。

研修会の様子

展望室から漁港の状況を視察

小名浜漁港の様子

放射性物質の漁協検査室を視察